

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 千代 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

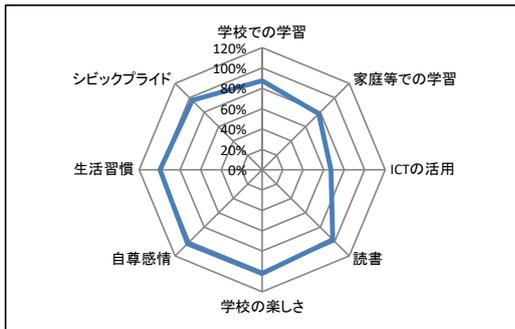
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	問題形式では、短答式や記述式より選択式の方が正答率が高く、領域ごとでは「言葉の特徴や使い方に関する事項」で正答率が高く、基本的な知識が定着していることがわかる。一方で、文章を読み取り、考えて判断や表現する力を伸ばすことが今後の課題であるといえる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題	下回っている
	努力が必要な問題	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	2学年で学習する「図形」や「データの活用」から出題されている問題について正答率が高い傾向が見られる。また、「数と式」における文字式やそれを利用して数学的な表現を用いて成り立つ事柄を説明する問題について課題が見られる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題	下回っている
	努力が必要な問題	文字式を利用して、成り立つ事柄を数学的な表現で説明することができるかどうかをみる問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	問題形式では、記述式の正答率が高い傾向である。領域ごとの正答率には大きな差はないが、「思考力・判断力・表現力」を問う問題の正答率が高い。基礎的な知識・技能の定着を図る取組が求められる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しいか場合の結果を予想することができるかどうかをみる問題	下回っている
	努力が必要な問題	実験の様子と密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
・ 「自分にはよいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」などの問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。	
・ 学校の学習活動、家庭等での学習活動に対する質問項目で、全国平均を下回っているため、今後も指導工夫及び改善に取り組むとともに、生徒自身の「自ら計画を立てて取り組む力」を伸ばしていけるように振り返り活動や定期考査前の学習計画表の作成などを実行していく。	
・ ICTの活用に対する質問項目で全国平均を下回っている。導入したAIドリルの活用で、各教科の基礎基本の定着や家庭学習の習慣作り、生徒の自己調整力の伸長にアプローチしていきたい。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語：読む力や思考力・判断力・表現力の向上が課題であり、読書活動、記述活動等を充実させる取組が重要である。
 数学：数と式、関数について基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題があり、授業での既習事項を確認しながらのスパイラル学習、ワークやAIドリルを活用した反復学習などによる基礎・基本の定着を図る取組が重要である。
 理科：知識・技能に課題があり、授業での定期的な確認テストやワークやAIドリルを活用した反復学習などによる基礎・基本の定着を図る取組が重要である。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習時間が全国平均を下回っているため、授業を通じて、「自ら計画を立てて取り組む力」の大切さや伸ばす方法について伝え、学習に取り組むシステムづくりを構築していく。